
仮面ライダークロッカー～始まりの物語～

sinne-キヨノリ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

仮面ライダークロツカー〈始まりの物語〉

【Nコード】

N0459Z

【作者名】

s i n n e - キヨノリ

【あらすじ】

この世界は、平和な筈だった。ある日突然、不思議な者達がその平和な筈だった世界を脅かす。其処に現れたのは、クロツカスと時計を模した仮面ライダークロツカー。*これは仮面ライダーを基にした全オリジナル小説です。苦手な方はすぐに逃げたほうが良いです。

1話「出会い、始まり、青年の変身」（前書き）

ララ「前書きとあとがきだけで登場します！鈴海ララです」

ルル「同じく鈴海ルル」

ララ「じゃ、今回は完全オリジナルだよ！」

ルル「他のsinne執筆小説に特別ゲストとして出てくるらしい」

1話「出会い、始まり、青年の変身」

「は〜」

青年が居た。

青年の名前は下樹雪人^{しもぎゆきと}。
フラワーチーム

F・Tという花屋で働く青年だ。

彼が溜息をついてる理由は、今月の食費諸々についてだった。

「何で、こんな風になるんだ〜……。俺って、結構金遣い荒かったっけな〜」

自分の所持金を見てもう一度溜息をつく雪人。

「バイト……。増やそうかな……。」

仕事をすでに結構している雪人にとっては、もう自分の為に使う時間は少なくなってきた。

それでも自分の生活費だけは稼がなければいけない。

「あ、雪人く〜ん！」

「あ、蕾さん」

彼女は蕾花苗^{つばみかなえ}。F・Tの若き店長である。

「だから、雪人君。花苗って呼んでってたでしょ。で、どうしたの？こんな所で呆然として」

「いやゝ。生活費が厳しくなつて・・・」

「また！？雪人君は、金遣いが荒いのよ。もう。はい」

「え？」

花苗は雪人に手を差し出した。

「今日くらいは私が奢つてあげる。結構お世話になつてるしね」

「・・・ありがとなゝ！！蕾さん！」

「だから花苗つて呼んで！」

「はいはい」

「はあ・・・はあ・・・」

少年が走っていた。

「見つけた。こっちに来い！」

「誰だ・・・」

「覚えてないのか。なら、力づくで捕まえるしかないか」

「はあ・・・はあ・・・」

少年は、追ってくる者に追いつかれないよう、全力で走る。

「あゝ、良かったあ、もう、本当に今月ピンチだったんだよ。ありがとな、蕾さん」

「だから、花苗って呼んでって言うてるでしょ。じゃあね。雪人君」
そう言つて、花苗は帰って行つた。

「ふう。良かった良かった。ん？」

雪人はあるモノを見つけた。

「君は・・・」

それは、少年だった。
ボロボロな布にくるまってブルブル震えている。

「どうしたんだ？君は」

「ぼくは、クキル。お兄ちゃんは？」

「俺は下樹雪人。で、どうして此处でこんな事してるんだ？」

雪人はクキルと名乗った少年に尋ねる。

「ぼくは、何でだろう？何だが、追われてるみたいなんだ。ねえ、雪人お兄ちゃん。ぼくを連れてってくれる？」

自分がよく分かってないように言うクキルに対し、雪人は

「分かった。でも、俺に着いてきてもあまり養えないぞ?」

「どうでもいい。ただ、あいつらから守ってくれば良いから」

「分かった。じゃ、付いて来な」

「うん」

雪人はクキルを連れて家に帰る。

「これが、クロツカーの資格者・・・」

クキルは、雪人に気付かれない様に呟いた。

その近くでは、不思議な少女と少年が居た。

「ねえ、アレク。あれが、クキルなの?」

「そうらしいわ・・・。コトト。もう少し、彼を偵察してみるわ。
それと、あの雪人という青年についても」

「分かった」

「ねえ、雪人お兄ちゃん」

「何だ？あと、俺の事は雪人って呼んでくれ、何だか変な感じがするって言うか、悲しくなるんだ」

「・・・うん、分かった。雪人。ねえ、此処が、雪人の家？」

「ああ、クキル」

「何？」

雪人はクキルに訊く。

「本当に俺でよかったのか？」

「うん。雪人じゃないと駄目だから」

クキルは、雪人に妙な執着を持っている。
それは出会ったときから既に分かる。

その時

「うつつ！」

「どうした、クキル」

「何だか・・・西の方向から、悪寒がする。何か、怪物が暴れているみたいだ！」

「怪物・・・」

いきなり苦しみだしたクキルに、雪人は疑問に思う。

「雪人・・・付いてきて！」

「え？あ、ああ？」

クキルは突然雪人の手を握ったかと思うと、雪人の手を引いて走って行った。

「ふふふ・・・。丁度良かったわね」

「モノの破壊衝動を吸い取り、何かを怪物にする。これは、ブレイクモンスターとも言っておく？アレク」

「そうね」

先程の少年と少女が石の怪物を引き連れている。

「あら、そちらから来てくれたようね」

其処には、クキルと雪人が居た。

「クキル、一体何なんだ」

「雪人。これを使つて！」

クキルが雪人に渡したのは時計。クロツカスの紋様が彫られている。

「それは！」

少女・・・アレクが驚いたように言う。

「これは、何だ？」

「クロックベルト。これでクロッカーに変身して！」

「・・・」

「お願い！」

必死で言うクキルに雪人は心を打たれ、受け取っていた。

「分かった。必死に言う願い事は、叶えてやらなきゃな。じゃ、行くぞ」

雪人は、クロックベルトの鎖を腰に巻きつける。
そして、時計部分を開けて言った。

「変身」

其処には、クロッカスと時計を模した者に変身していた。

「仮面ライダークロッカー。か」

アレクは、そう言い放った。

「成る程、なら、行かせて貰う！」

続く

1話「出会い、始まり、青年の変身」（後書き）

てわけで、またはじめてしまった・・・。

何だか次々とはじめてしまう・・・。

もうそろそろ何か終わらせなきゃ？（全部大して進んでない）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0459z/>

仮面ライダークロッカー～始まりの物語～

2011年12月1日20時46分発行